The 2 Chome Times２０２３年　２月号

NO1 のプレミアムストリートをめざして

NO２９７号.

２０２３年・　２月・２５日

発行　神戸三宮センター街２丁目商店街振興組合（tel331-3091）(fax333-8591)　　２丁目タイムス　２月号
編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄　http://www.centergai2.com　E-mail:centergai2@nifty.com
フェイスブックでも発信しています https://www.facebook.com/centergai2/
２丁目で KOBE　Free Wi-Fi ご利用いただけます

★神戸市・兵庫県の補助金を活用し、防犯カメラリニューアル！

昨今、強盗事件が世の中を騒がしております。商店街のお客様も、お店のスタッフの皆さんも安心してお過ごしいただけるよう、2 丁目商店街では全国に先駆けて平成１１年から防犯カメラを設置しておりましたが、この度さらに街の安心・安全を高めるため、より高画質で、最新の顔認証機能付きのカメラを 16 台設置します。AI が搭載されたカメラで、予めリストに登録された顔を検知すると自動的に警備会社に発信されるものです。また、今回の防犯カメラ設置にあたり、神戸市および兵庫県の共同施設等補助金の制度を活用し、振興組合の負担を軽減することができました。2 丁目商店街振興組合では、組合員の皆様から預かった大切な賦課金を有効かつ効率よく活用していきます。引き続きご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

★敦賀を訪ねました

１月３０日と３１日に「ＫＯＢＥ三宮・ひと街創り協議会」の久利会長と数名で「人道の港　敦賀ムゼウム」を訪ねました。当日は寒波到来で敦賀も雪景色になっていました。敦賀港は明治から昭和初期にかけて、ヨーロッパとの交通の拠点としての役割を担い、１９２０年代にポーランド孤児、１９４０年代にリトアニアにいた杉原千畝発給の「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港です。１９１７年に起こったロシア革命の翌年に独立したポーランドはその際シベリアに送られていた人達の処遇が問題になりました。日本赤十字社を中心にした救済事業によって孤児を日本で受け入れ、神戸港経由で祖国に帰されたそうです。昨年の９月号でもご紹介した様に神戸とウクライナ、神戸とポーランド、神戸とユダヤ難民は深く繋がりがあります。１９９５年の阪神淡路大震災の際、恩返しとしてポーランドにより被災児童を招待して頂いた事実もあります。２０２０年１１月３日にリニューアルオープンした新たなムゼウムは、大正から昭和初期にかけて敦賀港に実際にあった建物４棟（※）を復元した外観となっており、館内には、人道の港の歴

敦賀の松原での孤児

上陸を待つユダヤ難民

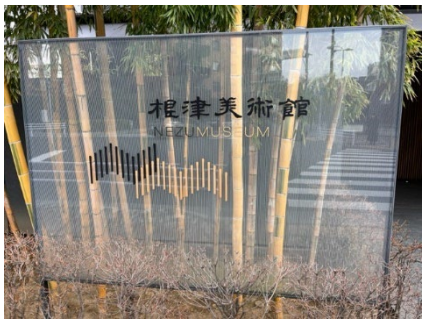
史を紹介するシアターやアニメーションを利用した展示などが設けられています。皆様も敦賀地方にご旅行される機会があれば是非、この施設に足を延ばして下さい。
（※）復元した建物４棟…国際航路で荷揚げされた荷物の検査を行う「税関旅具検査所」、欧亜国際連絡列車が運行した「敦賀港駅」、港の荷捌きなどを行っていた「大和田回漕部」、ウラジオストク間の定期航路を運航した「ロシア義勇艦隊事務所」

人道の港　敦賀ムゼウム　　https://tsuruga-museum.jp
〒914-0072 福井県敦賀市金ケ崎町 23-1
TEL 0770-37-1035　FAX 0770-37-1036

★南青山　根津美術館に行ってきました

所用で東京に行ってきましたが、時間があり南青山にある「根津美術館」を訪ねて来ました。根津美術館は、東武鉄道の社長などを務めた実業家・初代根津嘉一郎（1860～1940）が蒐集した日本・東洋の古美術品コレクションを保存し、展示するためにつくられた美術館です。ここで２月５日まで「遊びの美」という企画展がありました。

「遊び」と言っても私達現代人が想像するようなものではなく、歴史に目を向けてみると、公家が和歌の上達につとめた歌合や家の芸にまで高めた蹴鞠、武家が武芸の鍛錬として位置づけた乗馬や弓矢など、それらは単なる遊楽ではありませんでした。大変洗練された美しい美術館で、印象に残った作品、「武芸をみがく」の中の「犬追物図屏風」（江戸時代１７世紀）では矢にカバーを付けて、犬を標的に武士が弓矢の技術を競う様を描写した屏風です。矢にカバーを付けてあるとはいえ犬に同情したくなる競技ですが、その周りを走り回る子供や見物客の着飾った女性といった様に、現代の競馬場を少し連想してしまいました。また「市井の楽しみ」の中の「洛中洛外図屏風」（江戸時代１７世紀）では祇園祭山鉾巡行や神輿渡御が人々の生き生きした表情とともに描かれています。さらに「伊勢参宮図屏風」（江戸時代１７世紀）でも一生に一度のお伊勢参りを楽しむ人々や、橋のたもとで入れ物を掲げてお金を恵んでもらおうとする人達の様子も描かれており、正にその時の様子が頭に浮かぶようでした。また貴族の間で盛んに行われた歌合（うたあわせ）ですが、それらの懐紙も多く展示されており、いかに和歌が貴族社会で重要だったのかがよくわかります。現代と比べ楽しみが少なかった時代ではお祭り一つとっても今とは比べられない程心から楽しめた行事だったのでしょう。



皆様もまたの機会がありましたら歴史が詰まった「遊び」に触れてみませんか。
根津美術館:〒107-0062　東京都港区南青山６－５－１　http://www.nezu-muse.or.jp Tel.03-3400-2536

★編集後記

今回、街創り協議会が訪問された敦賀ムゼウムですが、多くの点で現在危機にあるウクライナの人々と重なってきます。現代になっても他国の人々を蹂躙してくる国家権力とその被害者。そしてその方達に差し伸べられる温かい手。決して同情からではなく、「明日は我が身」の想いがそうさせるのです。つい先日行われた募金活動もせめて少しでもお役に立てればからの想いでした。皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、これからの活動にもどうかご理解とご協力をお願いいたします。

美しい街　共に歩む　ビルメンテナンス
つるかめ管財株式会社　078-371-3589